

『日刊動労千葉』500号発行記念に際して

日刊動労千葉

80.8.5

No.500

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二五八・九（公衆）〇五五（22）七二〇七

北は北海道から南は沖縄まで、
すでに三八〇万枚が叩く人々の手に！

動労千葉のすべての皆さん。全国の心ある動労組合員の皆さん。および「日刊動労千葉」の読者の皆さん。本日、「日刊動労千葉」は五〇〇号発行に達したことを誇りをもって報告する。「日刊動労千葉」は一九七九年一月八日第一号発行以来、本日まで全国版をふくめて、実に二八〇万枚が発行され北は北海道、南は沖縄にいたるまで、発送されている。そして「日刊動労千葉」は、動労千葉の闘う路線「国鉄三五万人体制粉碎と結合した三里塚・ジェット闘争勝利、八〇年代に通用する自前の労働運動の創造」を広め、「紙の弾丸」として、「本部」反動分子の反労働者の諸策動を粉碎する武器として、かぎりない役割をはたしてきた。われわれ「日刊編集委員会」は、五〇〇号発行記念に際しさらに紙面の充実化と内容の豊富化をはかり、激動の八〇年代を真ににないきる動労千葉にふさわしい機関紙としてかちとることをあらためてここに決意する。

闘いのなかで生まれ、
育まれた「日刊動労千葉」

われわれは、一九七九年冒頭動労千葉地本排除組織破壊攻撃が激化する状況のなかにあつて、「本部」反動分子のデマ宣伝に抗して真実を真実として伝え、動労千葉組織破壊粉碎・動労大改革を目ざして「日刊動労千葉」の発行を決意した。同時にそれは動労千葉の一大飛躍をかけた闘いであつた。「日刊」の発行は、日常の組合業務を全うしつつ、「本部」反動分子の労働運動を逸脱した暴力とデマによる組織破壊攻撃を粉碎し、執筆からタイプ、レイアウト、印刷、発送、配布体制を日常的に維持し継続しなければならない困難な作業だ。しかし、われわれはこれを見事にやり抜いたのである。

「日刊」は、発行して第三四号にして動労「本部」から「発行停止処分」攻撃をかけられた。それは裏を返せば、「日刊」があまりにも正鵠を得た内容として「本部」反動分子の不正義と、裏切りの路線を、くつきりとあばき出し批判しぬいていたからである。

「本部」反動分子は、「日刊」が提起する闘いの路線、闘いの報告に一言も答えることができず、「日刊」はデマ情報であり発行停止処分であるから読むなと組合員を弾圧したのはこの時期である。しかし、われわれはこの理不尽な「発行停止処分」にも屈せず発行を継続してきた。闘いのなかで生まれ、育まれた「日刊」は、いまや全国津々浦々で、動労大改革を心から願う人々に送り届けられ、読まれ、注目されている。

われわれ、動労千葉一四〇〇名はもとより、こ

動労大改革の指針！
「日刊」を全員の力で支えよう！

「本部」反動分子は、全国大会までの「千葉地本再建」策動が破産し、そのペテン的のり切り策として佐倉、津田沼で「業務再開」した等とごまかしている。

しかも許せないことには、動労千葉破壊のためには、権力・当局にも手を借りるとして、裏切り・スパイ分子を使つて積極的に権力・当局にタレコムことを路線化している。労働組合が労働者を権力に売り渡すことを方針化することは、もはや自からが労働組合ではないことを証明するものだ。「国鉄三五万人体制」攻撃の前に組合員をさらし、三里塚闘争に敵対し、「水本謀略運動」をもってセクト的に組合員をひきまわす今日の動労「本部」は、労働組合運動から、ますます大きく逸脱している。

全国の動労組合員の皆さん。

動労千葉は、かかる「本部」反動分子の反動性、反階級性を、運動と「日刊」を通して徹底して断罪し闘いへの決起を今後も訴えていくことを明らかにする。

動労千葉の皆さん。

「日刊」を全組合員の闘う指針として、「五五・一〇」「五六・三」へむけ、体制をより強化しよう。そして、新たな決意をもって動労内外の労働者・人民に、動労千葉とともに闘うことを呼びかけてゆこう。